

**秦野市羽根地内「羽根森林資源活用拠点（仮称）」整備に関わる
民間活力の導入に向けたサウンディング型市場調査**

Information Package
令和 6 年7月

1. 事業概要

羽根森林資源活用拠点（仮称）とは

1 羽根森林資源活用拠点（仮称）とは

羽根森林資源活用拠点（仮称）（以下、「本拠点」という。）は、羽根（字内屋敷1066番1ほか98筆）に位置する、広さ約5.1haの未利用地である。

表丹沢の豊かな森林に隣接するとともに、令和4年4月に開通した新東名高速道路・秦野丹沢スマートインターチェンジ（以下、「秦野丹沢SIC」という。）から至近の位置にある。

平成14年に民間事業者から寄付を受け、活用方策を検討してきたが、令和3年11月に策定した「羽根スポーツ広場（仮称）用地に関する土地利用方針」（以下、「土地利用方針」という。）において、『森林資源の活用拠点を軸とした環境共生に資する土地利用』をコンセプトとした活用を図ることとした。

令和5年2月には土地利用方針を具現化する内容として本拠点のコンセプトや具体的な導入機能を示した「羽根森林資源活用拠点（仮称）における土地利用構想」（以下、「土地利用構想」という。）を策定した。

2 本計画の位置付け

都心部からのアクセス性を最大限に生かし、関連計画等との連携を図りながら、表丹沢の魅力づくりと小田急線4駅周辺のにぎわいづくりを一体的に進め『全国屈指の森林観光都市』の実現を目指す。

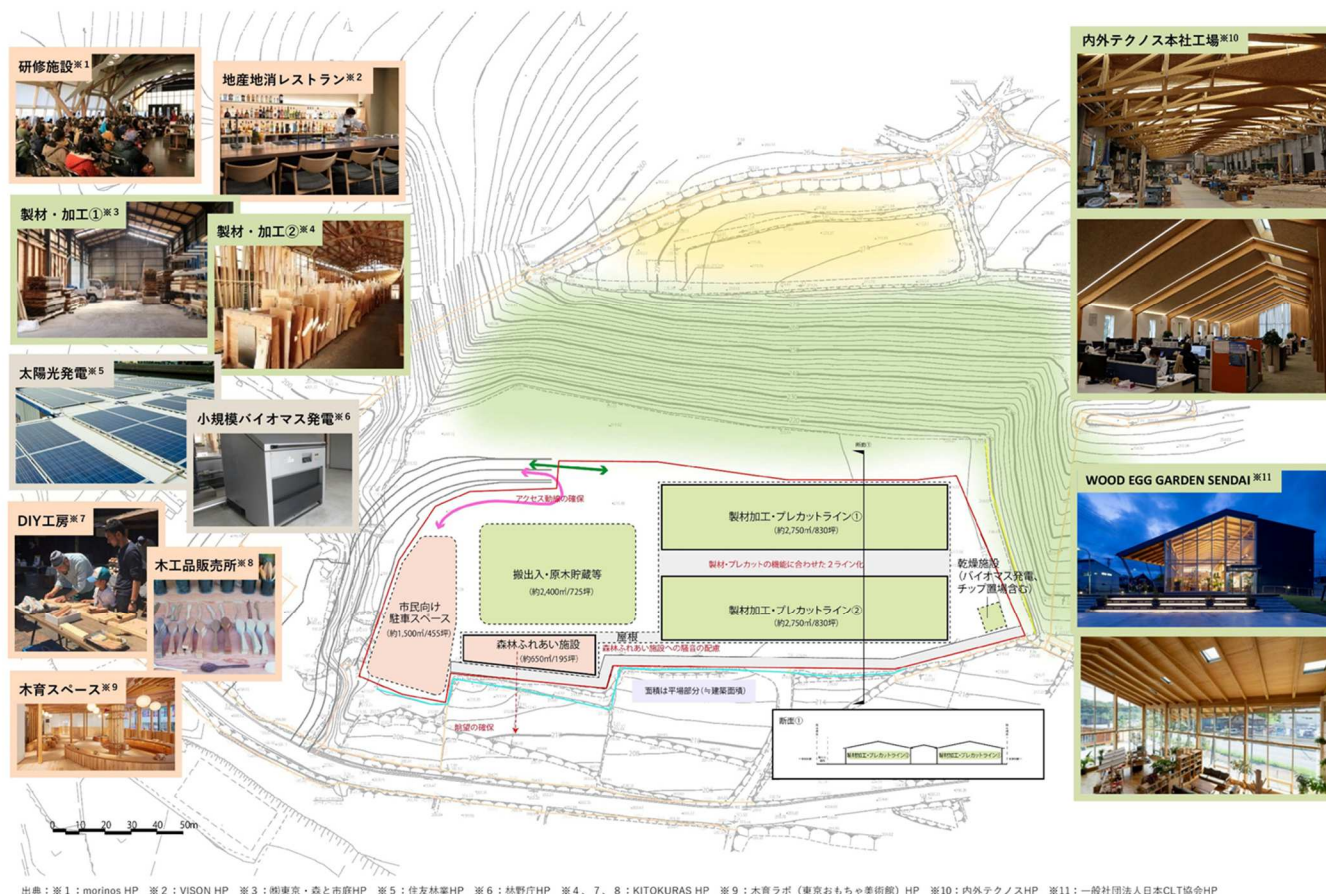
■本拠点の位置



羽根森林資源活用拠点（仮称）における土地利用計画p1より抜粋

事業予定地の基本情報（面積・立地等）

以下は土地利用計画で示された配置例であるが、本サウンディング調査においては、当該配置例を参考にしつつも民間事業者の創意工夫に基づく柔軟な提案を期待するものであることに留意されたい。



土地利用計画の際に作成した具体的な施設配置を示す土地利用の配置例

(1) 製材・加工施設

- ・ 関連企業へのヒアリングを基に、製材・加工ラインを2列配置とした。
- ・ 乾燥施設を製材・加工ラインに近接して配置した。
- ・ 搬出入・原木貯蔵等のスペースは、車両動線を考慮して敷地入口側に配置した。

(2) 森林ふれあい施設※

- ・ 駐車スペースを十分に確保するため、土地利用構想で示されている土地利用配置案で「誘客施設」としていたエリアを市民向け駐車スペースとした。
- ・ 森林ふれあい施設は、南側の日照および眺望確保に配慮し、敷地南側に南面配置した。
- ・ 建築物は製材・加工施設と一体とし、1敷地1建築物とした。ただし、製材・加工施設からの騒音を軽減するため、両施設は渡り廊下を介して接続する配置とした。
- ・ 当施設の主要用途は、土地利用構想で示されている「地産地消レストラン・カフェ」、「地場産農林産物等直売コーナー」、「木育コーナー」、「インフォメーションセンター」、「DIY工房・木工体験施設」、「研修室」のほか、製材・加工施設関連の執務室等も含むものとした。

※土地利用構想で「誘客施設」と称していた施設を指す。

出典：※1：morinos HP ※2：VISON HP ※3：朝東京・森と市産HP ※5：住友林業HP ※6：林野庁HP ※4、7、8：KITOKURAS HP ※9：木育ラボ（東京おもちゃ美術館）HP ※10：内外テクノ本社工場HP ※11：一般社団法人日本CLT協会HP

事業予定地の基本情報（面積・立地等）

以下は土地利用計画で示された配置例に基づくデータであり、既述の通り本サウンディング調査においては、当該配置例を参考にさせていただきつつも民間事業者の創意工夫に基づく柔軟な提案を期待するものであることに留意されたい。

区分		面積
平場部分	製材加工施設関連	1.3ha
	森林ふれあい施設関連	0.3ha
	敷地内通路	0.1ha
	小計	1.7ha
平場以外	進入路	0.2ha
	法面	2.4ha
	見晴らし広場	0.2ha
	その他、山地等	0.6ha
	小計	3.4ha
合計		5.1ha

- 本拠点活用に当たっての緑地の確保について
- 本拠点における整備に当たっては、まちづくり条例または工場立地法に基づき、一定の緑地の確保が求められる。
- 以下、まちづくり条例及び工場立地法に基づく緑地確保の基準を整理する。
- これらによると、
- ・開発区域の25%の緑地を確保（まちづくり条例）
 - ・生産施設面積の敷地面積に対する割合は、40/100または35/100
 - ・緑地面積率は20%以上、環境敷地面積率は25%以上
- ※環境敷地面積に緑地面積含む
- ・緑地に建築物屋上等の緑化施設含む など
 - ・環境施設面積に「森林ふれあい施設」「公園的な調整池」を含むことができる（以上、工場立地法）
- なお、これら基準に準拠した緑地を平地部分のみで設けることは困難であることから、法面部分を開発区域に含めることが求められる。

森林ふれあい施設 主要室想定面積表							
想定階	部門	室名	想定 床面積（㎡）	想定 床面積（坪）	特記事項	利用想定	計画根拠
1	森林ふれあい	地産地消レストラン・カフェ	50	15.1	地場産農産物やジビエを活用した地産地消レストラン・カフェ	20席程度、厨房込	2.5㎡／人 厨房含む
1	森林ふれあい	地場産農林産物等直売コーナー	40	12.1	地場産農産物や、秦野産材を活用した薪や家具・インテリア・アウトドア製品等の販売		
1	森林ふれあい	木育コーナー	15	4.5	未就学児～小学校低学年が木のおもちゃで遊べるスペース		
1	森林ふれあい	インフォメーションセンター	20	6.1	表丹沢の情報発信やツアーデスク、E-BIKEレンタル・充電等		
1	共用・管理等	市民向けエントランス	20	6.1			
1	共用・管理等	執務室（製材加工施設）	160	48.4		20人程度	7.5㎡／人
1	共用・管理等	執務室（森林ふれあい施設）	40	12.1		5人程度	7.5㎡／人
1	共用・管理等	男女トイレ	30	9.1	多目的含		
1	共用・管理等	男女更衣室	30	9.1	職員向け		
1	共用・管理等	倉庫	20	6.1	直売コーナー、レストラン関連		
1	共用・管理等	荷捌き・ゴミ収集	10	3.0			
1階主要室 面積計			435	131.6	…ア		
想定1階床面積			652.5	197.4	…イ（ア×1.5） ※廊下、縦動線等を想定		
2	森林ふれあい	DIY工房・木工体験施設	100	30.3	来訪者が気軽に木に触れられる体験施設	16～24人／回程度	里山ふれあいセンターの木工実習室が70㎡程度（最大収容人数16人）、よりゆとりある施設として現況面積1.5倍を想定
2	森林ふれあい	研修室	130	39.3	ワークショップや地元小学生の木育、次世代林業従事者育成のための研修施設	60～90人程度	里山ふれあいセンターの研修室が85㎡程度（収容人数60人）、よりゆとりある施設として現況面積1.5倍を想定
2	共用・管理等	倉庫	20	6.1	工房、研修室関連		
2	共用・管理等	男女トイレ	30	9.1	多目的含		
2階主要室 面積計			280	84.7	…ウ		
想定2階床面積			420	127.1	…エ（ウ×1.5） ※廊下、縦動線等を想定		
各階主要室 面積計			715	216.3	…オ（ア＋ウ）		
想定延床面積			1072.5	324.4	…カ（オ×1.5） ※廊下、縦動線等を想定		

土地利用構想の概要 ～基本コンセプトとキーワード～

本市の森林の現状と課題

- ・ 秦野市は伐期を迎えた貴重な森林資源を豊富に有しています。
- ・ 伐期を迎えているにもかかわらず、立地条件の不利に加え、木材利用における外国産材の国内シェア拡大、木材価格の低迷という経済的要因等から更新がされていない森林もあります。

SIC開通に伴うアクセス性の向上

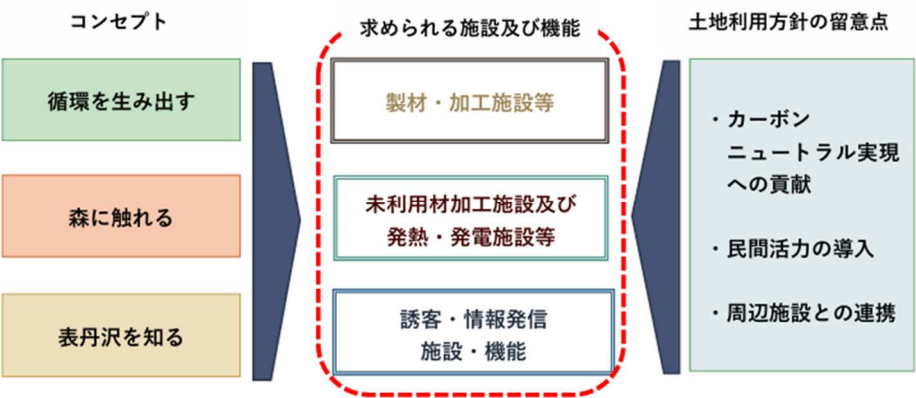
- ・ 令和4年4月に、新東名高速道路・秦野丹沢SICが開通し、同SICから本拠点までは約2kmと短縮され、アクセス性が向上しています。
- ・ 令和9年度に新東名高速道路の新秦野インターチェンジから新御殿場インターチェンジの区間が開通する予定となっており、本拠点の活用の可能性が更に広がることが期待されます。

土地利用方針及びコンセプトにおけるキーワードにおいて、求められる施設及び機能を整理すると、大きくは次の3つの施設及び機能が想定できます。

秦野市地球温暖化対策実行計画では、本市が令和3年に表明した「2050年ゼロカーボンシティ」の実現に向けた計画の一環として、森林資源の活用を中心としたエネルギー循環のあり方を提示しています。これを踏まえ、環境共生と地区の活性化のための、人・モノ・エネルギーの好循環を生み出すきっかけとなる施設を目指します。

秦野市森林整備計画では、基本施策の一つとして「森林とのふれあいと市民参加の森林づくり」を定めています。この施策を具現化する取組みとして、充実した森林資源、林業に触れることで、秦野の森林の持つ豊かな魅力を体験できる施設を目指します。

表丹沢魅力づくり構想では、表丹沢の魅力づくりビジョンを「『本物の魅力』が見つかる表丹沢」とし、訪れる人それぞれにとってかけがえのない本物の体験ができる場所と位置付けています。本拠点は秦野丹沢SICに程近く、表丹沢の玄関口の一つとなることから、表丹沢の魅力を広く伝え、本物の体験ができる施設を目指します。



森林資源を活用しつつ、カーボンニュートラルに貢献する拠点を目指す

本拠点到隣接する秦野の森林は、豊かな森林資源を有するとともに、本市の二酸化炭素の吸収・固定化に重要な役割を担っています。本拠点の活用においては、秦野の森林資源を最大限に活かし、かつ本市が目指すカーボンニュートラルに貢献する拠点となることを目指します。

様々な主体が関わることで、表丹沢の多様な価値を引き出す施設を目指す

本拠点の活用に当たっては、民間活力を導入するなど、様々な主体が関わることで、表丹沢が持つ多様な価値を引き出し、体験できる施設となることを目指します。

周辺施設と連携しながら、表丹沢の本物の魅力を体験し、学べる施設を目指す

本拠点の周辺には、表丹沢野外活動センター、県立秦野戸川公園、里山ふれあいセンターなどが立地しており、それぞれが表丹沢の魅力を発信し続けています。本拠点はそれらと連携しながら、表丹沢の本物の魅力を体験したり学んだりすることができる施設となることを目指します。

土地利用構想の概要 ～求められる施設及び機能～

① 製材・加工施設等	- 今後さらに増加が期待される木造建築物の構造材を大量に供給できる製材・プレカット施設に加え、内装材等の建材、家具等のインテリア、アウトドアグッズ等の最終加工品の加工施設等が想定される。 - 廃木材や木屑などをバイオマスとして施設自体のエネルギーに活用することで、ゼロカーボンへ貢献。 - 見学コースを設けることで、誘客の促進とともに、環境学習の場の拡大にもつながる。
② 未利用材加工施設及び発熱・発電施設等	- ゼロカーボンシティへの挑戦を踏まえ、未利用材等の加工施設やバイオマス発熱・発電施設があげられる。 - 現在、間伐等で発生した未利用材等の多くは、神奈川県森林組合連合会の森林センターにてチップ化されているが、本拠点において薪等への加工生産につなげていくことも考えられる。 - 本拠点の導入施設で排出される廃木材等を施設内で活用するという形が望ましい。 - あわせて再生エネルギー活用の観点から、屋根上等を利用した太陽光発電の導入も考えられる。
③ 誘客・情報発信施設・機能等	「森に触れる」、「表丹沢を知る」というキーワードを具現化するために、登山やトレッキングなど丹沢への来訪者や観光客等にも、広く森林保護・育成への取り組みや表丹沢の魅力について理解してもらう情報を発信する場や取り組みが重要。 - また、製材・加工施設での生産品を販売することで、本市林業の6次産業化が可能となる。具体的な施設・機能は、次のように考えられる。 【森林系参加体験施設】幼児から大人までが自ら木に触れることを体験できる、木工体験やDIY工房、木育コーナー（木のおもちゃコーナー）等。 【薪・木工製品等展示販売施設】キャンプや薪ストーブ用の秦野産材を利用した薪の販売。加工施設で加工された内装材、家具、おもちゃ等の最終商品やそのアウトレットショップ、デザイナーによるインテリア商品展示等。 【食関連施設】魅力ある秦野産食材はもちろんのこと、森林保全につながるジビエ等を扱った直売所や、地産地消レストラン・カフェ等。 【研修施設】来訪者が気軽に参加できるワークショップや、地元小学生等の教育体験（木育）、次世代林業従事者育成のための会議研修施設等。 【情報発信機能】表丹沢や秦野の森林についての紹介コーナーやE-BIKEレンタルツアーデスク等のインフォメーションセンター。表丹沢全体をフィールドととらえたイベントやツアー等の取り組み 【例】地元里山保全団体との共同ツアー、周辺施設との連携イベントの実施等、進出企業、周辺企業等のショールーム、工場見学等
④ その他の導入施設・機能	- 本拠点が、地域エネルギーの循環へ資する役割を担うということを想定し、地域住民や来訪者が参加できるような仕組みや施設も考えられる。 【例】枝木・廃木材等の収集ステーション（「木の駅」）、山林のヤマビル対策にもつながる落ち葉の腐葉土堆肥化、表丹沢周遊のレンタルE-BIKEや電気自動車用充電ステーション等

本年1月のサウンディング調査に参加した製材業者の意見概要

- 想定される製品・機能は製材・プレカット、集成材等
- 想定される具体的な設備は製材機、乾燥機、プレカット、バイオマス（但し自社利用）、集成材加工機等

本事業の特徴

◆ 過去に例のない林業分野での官民連携事業

- ・ 製材・加工施設と誘客・情報発信施設等の独自の組み合わせ
- ・ 秦野市のみならず神奈川県的林業にとって象徴的な事業に発展していく可能性
- ・ 秦野産材を使用したシンボリックな施設建設や、森林とのふれあいを活かした事業運営も可能

◆ カーボンニュートラルへの貢献

- ・ 秦野産材やバイオマス・太陽光活用によりカーボンニュートラル推進に大きく貢献
- ・ 秦野市が掲げるバイオマス産業都市構想の象徴的な拠点となる可能性

◆ 自由度の高い一貫した事業運営となるスキームを想定

- ・ 建設から運営まで一貫して民間事業者が関与する事業
- ・ 誘客・情報発信機能等は、民間事業者の得意領域や事業方針に沿った一定の自由度を確保する想定

◆ 企業CSRへの貢献

- ・ 企業名や商製品名を冠して拠点化していくことによる企業ブランド・イメージ向上への貢献
- ・ ESG経営や健康経営に取り組む企業との連携による、新たな事業展開への発展可能性

2. 参考情報

国・神奈川県・秦野市の林業の概況/近隣の関係施設

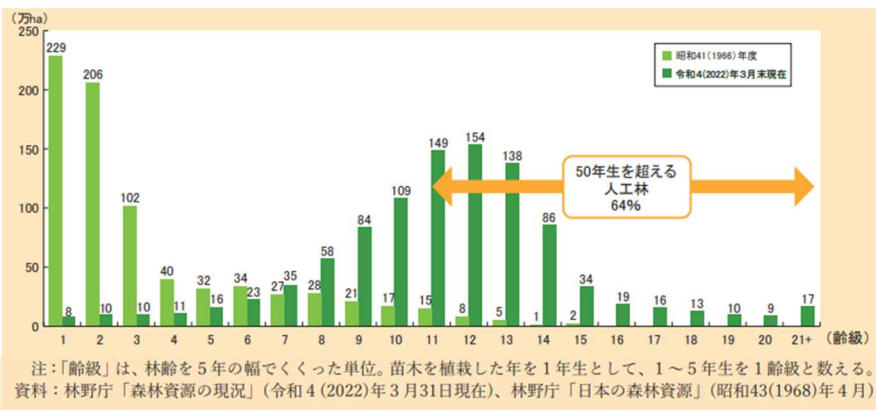
国の林業の概況

(出典) 令和5年度 森林・林業白書

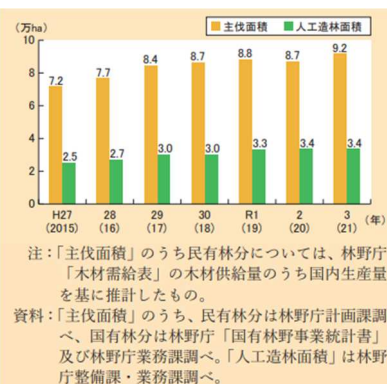
令和5年度 森林・林業白書（令和6年6月4日公表）：林野庁（maff.go.jp）

森林は、土壌の保全や水源の涵養、地球温暖化の防止、保健・レクリエーションの場の提供、生物多様性の保全に加えて木材の供給といった多様な機能があり、これらの機能を持続的に発揮させるため、多様な森林がバランス良く形成されるよう取組を進めることが必要とされます。間伐や主伐後の再造林等を着実に進めつつ、森林資源の適切な管理・利用を進めることが大切です。

人工林の齢級別構成の変化



主伐面積と人工造林面積の推移



循環利用のイメージ



新計画 森林・林業・木材産業による「グリーン成長」

森林を適正に管理して、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで、2050カーボンニュートラルも見すえた豊かな社会経済を実現

森林資源の適正な管理・利用

- 適正な伐採と再造林の確保（林業適地）
- 針広混交林等の森林づくり（上記以外）
- 森林整備・治山対策による国土強靱化
- 間伐・再造林による森林吸収量の確保強化



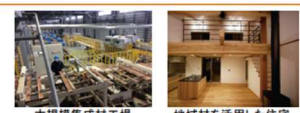
「新しい林業」に向けた取組の展開

- イノベーションで、伐採→再造林保育の収支をプラス転換（エリートツリー、自動操作機械等）
- 林業従事者の所得と労働安全の向上
- 長期・持続的な林業経営体の育成



木材産業の国際・地場競争力の強化

- JAS乾燥材等の低コスト供給（大規模）
- 高単価な板材など多品目生産（中小地場）
- 生活分野での木材利用（広葉樹家具など）



都市等における「第2の森林」づくり

- 都市・非住宅分野等への木材利用
- 耐火部材やCLT等の利用、仕様設計の標準化
- 木材製品の輸出促進、バイオマス熱電利用



新たな山村価値の創造

- 地域資源の活用（農林複合・きのこ等）
- 集落の維持活性化（里山管理等の協働活動）
- 森林サービス産業の推進、関係人口の拡大



森林・林業基本計画においては、森林を適正に管理し、林業・木材産業の持続性を高めながら成長発展させることで、2050カーボンニュートラルも見据えた豊かな社会経済を実現する「森林・林業・木材産業によるグリーン成長」を掲げています。

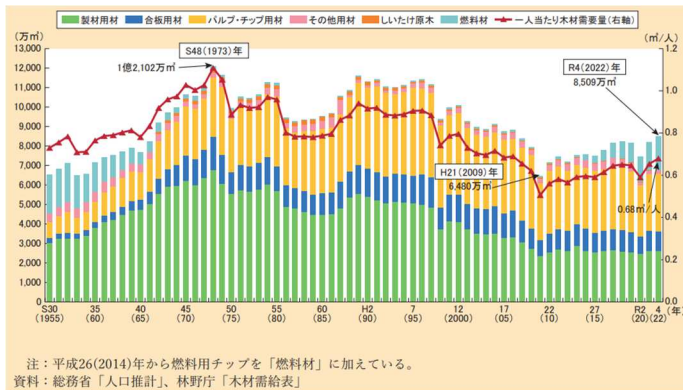
国内では50年生を超える人工林が過半となり収穫期を迎える一方で、主伐後の再造林が進んでいない、または主伐そのものが行われず、資源の循環利用がなされていないことが課題となっています。

高齢林の割合が増え二酸化炭素の吸収量が減少傾向にあるほか、若い森林が極端に少ないことで次世代の木材資源が不足する可能性があります。これらのことから、間伐などによって森林を健全な状態に保つことに加え、林業適地においては適正に伐採（主伐）し、木材を利用し、伐採後に適切に植栽（再造林）を行うことが求められています。また、植栽する苗木においても、各地で花粉の少ない品種や成長に優れた品種の改良が進み、これらを積極的に用いることも推奨されています。

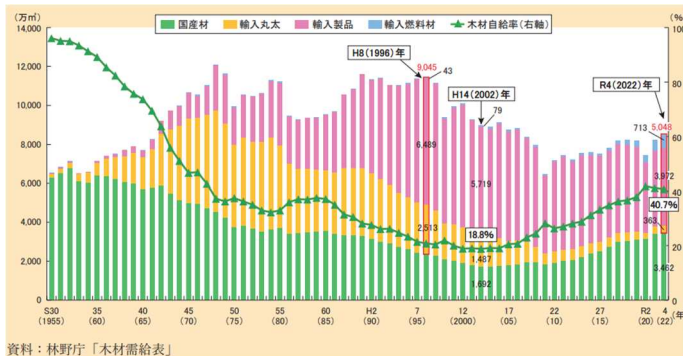
国の木材産業の概況

近年は戸建住宅の新築着工戸数の減少により建築用材の需要は減少していますが、バイオマス燃料材の需要が増加し全体的には緩やかに増加傾向にあります。木材需要全体に占める製材用材の割合は30％程度となっています。国産材供給の減少と木材輸入の増加によって木材自給率は一時20％を割っていましたが、森林資源の充実や合板原料としての国産材利用の増加、木質バイオマス発電施設での燃料材利用の増加等を背景にここ20年ほどは増加傾向にあり、現在は40％程度まで回復しています。近年ではアメリカの住宅着工の増加による木材需要の高まりや、ロシア・ウクライナ情勢の影響などにより輸入木材が不安定となり、代替として国産材の需要が高まっています。

国内の木材需要量推移



国内の木材供給量・自給率推移



製材工場の国産原木消費量

工場の規模 (国産原木消費量)	平成16(2004)年	令和4(2022)年
10万m³以上	0 (0)	14 (268万m³)
5～10万m³未満	13 (85万m³)	32 (222万m³)
1～5万m³未満	194 (370万m³)	200 (423万m³)
1万m³未満	9,213 (692万m³)	3,558 (381万m³)

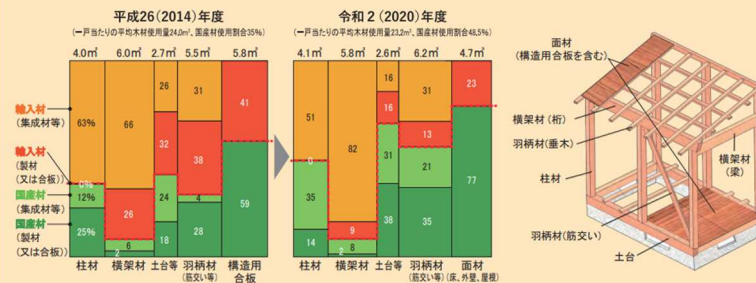
注：製材工場数全体は、平成16(2004)年は9,420、令和4(2022)年は3,804（農林水産省「木材需給報告書」）。
資料：林野庁木材産業課調べ。

合板工場の国産原木消費量

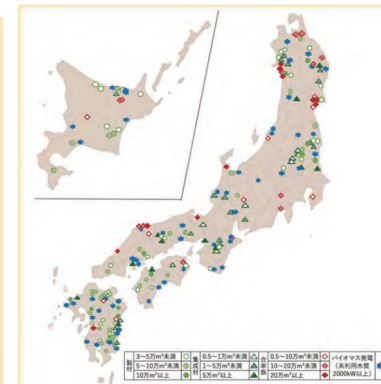
工場の規模 (国産原木消費量)	平成16(2004)年	令和4(2022)年
20万m³以上	0 (0)	7 (203万m³)
10～20万m³未満	1 (14万m³)	15 (223万m³)
1～10万m³未満	11 (28万m³)	3 (24万m³)
1万m³未満	275 (13万m³)	130 (41万m³)

注：合板工場数全体は、平成16(2004)年は287、令和4(2022)年は155（農林水産省「木材需給報告書」）。
資料：林野庁木材産業課調べ。

資料Ⅲ-12 木造軸組住宅の部材別木材使用割合(大手住宅メーカー)



国内製材工場の概要



神奈川県林業の概況

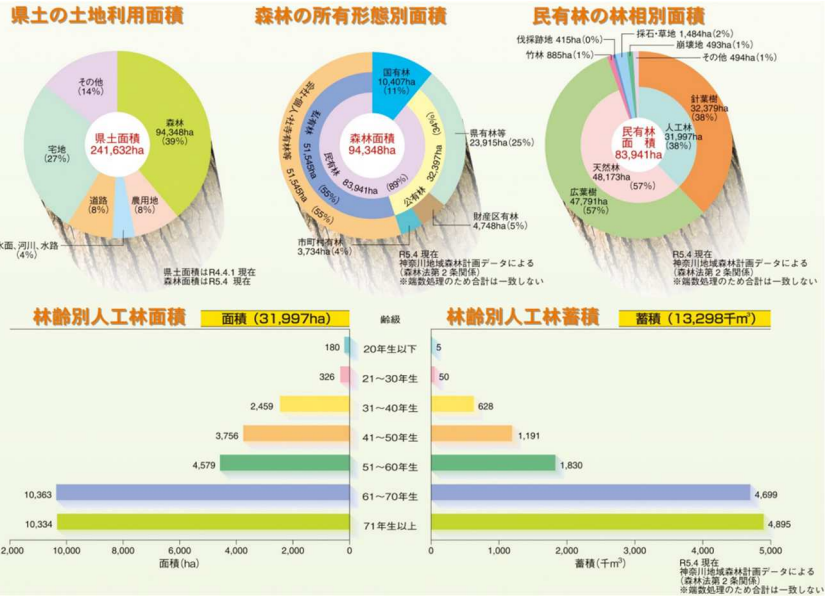
(出典) 統計資料集「神奈川の森林と林業」



神奈川県には丹沢大山や箱根山地を中心に、約9.4万haの森林があり、県土の39%を占めています。県内にある4つのダムは県民が利用する水道のほとんどを賄っており、県内の森林はこれらの水源として非常に重要な役割を担っています。森林の手入れ不足等によって県内各地で森林の荒廃が進み、水源環境の保全・再生が大きな問題となっていたことを受け、「水源の森林づくり事業」として様々な制度を整備し、平成19年度から20年間にわたり、公的な管理や支援を通して森林整備を強力に進めています。



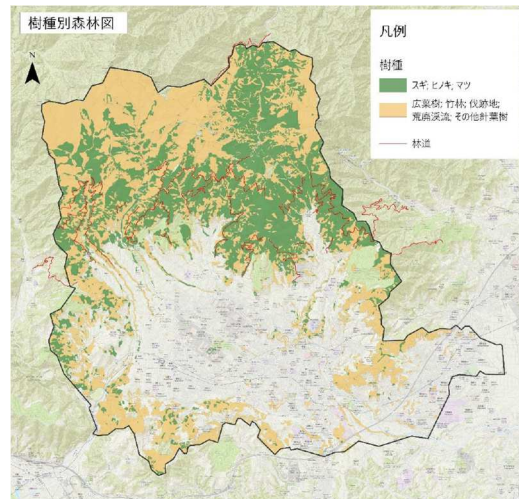
県内の丸太生産量は平成15年には3,000m³まで落ち込んでいましたが、間伐材搬出に対する助成金など県の様々な支援に後押しされて生産量が増加し、近年は30,000m³程度で推移しています。県内では住宅分野だけでも丸太換算で100万m³もの大きな需要があると推計されており、需給量には非常に大きな隔たりがあります。また、水源の森林づくり事業によって間伐を中心とした森林の保育が推し進められてきた一方で、収穫行為である主伐とそれに伴う再造林は殆ど行われていないという特徴もあります。



県内で生産された丸太は、主に神奈川県森林組合連合会の運営する林業センター(秦野市)又は津久井貯木場(相模原市)へ集められ、県内外の製材工場・合板工場・チップ工場等へ販売されます。中でも、柱などの建築用材にされる丸太(A材)のほとんどは相模原市にある製材工場に販売され、かながわ県産木材として地域の工務店等に流通しています。県内の森林地域のうち、現在木材生産が盛んなのは県西部となっていますが、県北部にある製材工場まで運搬するためのコストがかかっているほか、CO2の排出原因にもなっていると考えられます。また、現状では中程度の太さの丸太から柱を中心に製材されており、今後森林が高齢化する中で、大径丸太の利用も課題となっています。

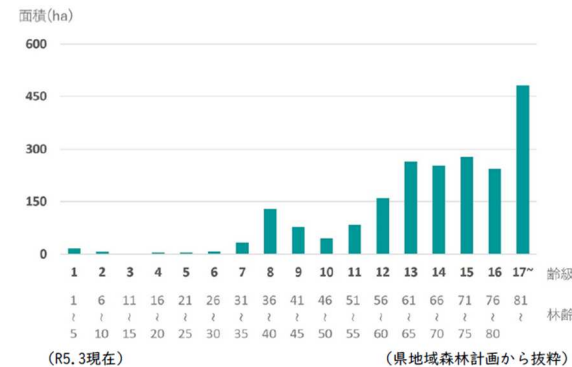
秦野市の林業

樹種別森林図



秦野市は北方を丹沢山地に囲まれ、森林面積は約5,426haと市域の約52%を占めています。市内の森林は標高によって大まかに区分でき、市南部の市街地周辺には里山林があり、北部の標高が高いエリアには奥山林が広がり、中間の山地林はスギ・ヒノキ人工林が主体となっています。スギ・ヒノキ人工林は水源涵養林として重要な役割を持つだけでなく、林道から近いなど立地条件が優れている場所においては、木材生産林として森林資源の持続可能な利用をしていくことが求められます。

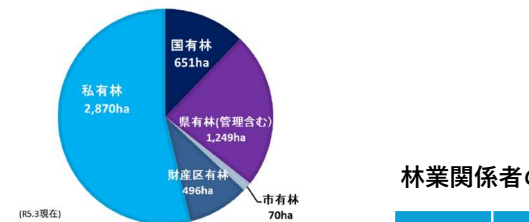
人工林（民有林）の樹齢別面積



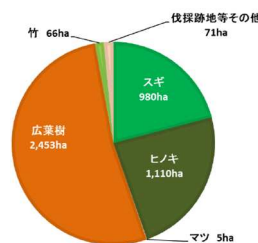
秦野市は県内でも最も林業・森林整備が盛んな市町村の一つで、人工林(※)については7割以上が何らかの形で管理されている状況です。市内の木材生産量は年間5,000m³ほどと、神奈川県木材生産量の2割弱を占めており、県内の重要な木材生産地となっています。

市内森林の人工林率は約45%で、スギ人工林とヒノキ人工林の面積はおおよそ半々となっています。人工林の樹齢別面積(※)を見ると約8割が56年生以上となっており、これは全国平均や神奈川県の平均よりもさらに高齢に偏っています。そのため、県内の他の市町村よりも早い段階で大径丸太の生産割合が多くなっていくものと考えられます。

※…民有林のみ



所有形態別森林面積



樹種別森林面積

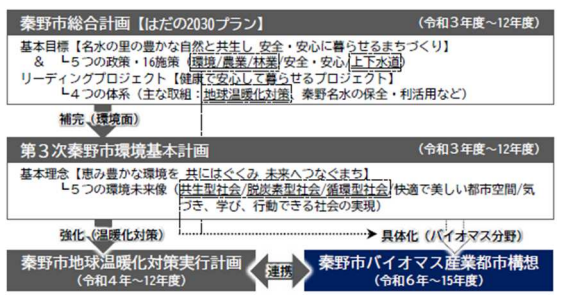
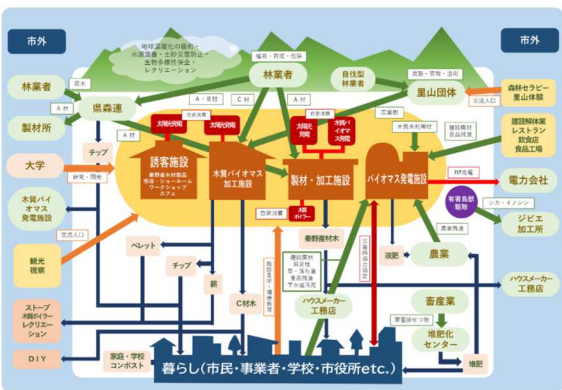
林業関係者の概要

	秦野市森林組合	神奈川県森林連合会
所在地	神奈川県秦野市羽根988 (里山ふれあいセンター内)	秦野市菖蒲317番地
業務内容	・素材生産・製材・販売 ・水源林長期施業受委託 ・組合員・民間からの委託事業 ・官公庁からの委託業務 ・優良苗木の斡旋 ・椎茸菌・原木・植菌済原木の斡旋 ・林業用機材・資材の斡旋	・森林調査・計画設計 ・森林整備・間伐材生産 ・木材販売・木材加工 ・指導・育成 ・森林・林業資材等の販売
備考	秦野市里山ふれあいセンター指定管理者	—

秦野市バイオマス産業都市構想／県内の主な山岳・里山施設

秦野市のバイオマス産業都市構想

秦野市バイオマス産業都市構想は、産業創出（林業の体力及び魅力の向上等）を第一に低（脱）炭素社会と循環型社会の構築を網羅したまちづくりを目的に策定し、積極的に取組みを推進していくもの。



秦野市バイオマス産業都市構想（基本構想編）p15より

主な山岳・里山関連施設の概要

丹沢山地の中でも秦野市側は表丹沢と呼ばれ登山スポットとして非常に人気があり、首都圏から多くの登山客が訪れています。近年では登山だけでなく、トレイルランニングや沢登りなどのアクティビティや、ヒルクライムなども盛んです。



No.	施設名	管理(運営形態)	開設年	主な施設
1	表丹沢野外活動センター	秦野市(市直営)	平成19年	研修棟、活動棟、キャンプ場、風呂棟、いりり棟、森林遊び場等
2	田原ふるさと公園	秦野市(地元組織)	平成12年	直売所、そば屋、漬物加工場、水車小屋、広場等
3	里山ふれあいセンター	秦野市(指定管理)	平成13年	研修室、木工実習室、炭焼き窯等
4	ヤビツレストハウス(仮称)	秦野市(賃貸借)	令和3年(予定)	カフェ、厨房、休憩スペース、物販スペース等
5	緑水庵	秦野市(地元組織)	平成3年	古民家、水車小屋等
6	大倉高原	秦野市(市直営)	昭和26年	テントサイト
7	県立秦野戸川公園	神奈川県(指定管理)	平成9年	野球場、多目的グラウンド、川遊び場、BBQ場、茶室等
8	県立秦野ビジターセンター	神奈川県(指定管理)	平成9年	展示スペース、図書コーナー
9	県立山岳スポーツセンター	神奈川県(指定管理)	平成9年	屋外クライミングウォール(リンド、ズビード) 研修室、登山装備・ウェア(屋内・屋外)、宿泊室、食堂、厨房、シャワー等
10	はだの丹沢クライミングパーク	秦野市(市直営)	令和2年	屋内ボルダリングウォール等
11	県立秦野戸川公園レストハウス	神奈川県(協定に基づき市管理)	令和2年	飲食物販店
12	表丹沢民の森	神奈川県(県直営)	昭和49年	あずまや、芝生広場、散策路等
13	三ノ塔休憩所	神奈川県(県直営)	平成31年	休憩スペース
14	葉の花台園地	神奈川県(協定に基づき一部市管理)	平成7年	展望台、トイレ等

(出典) 表丹沢魅力づくり構想p20

(注) 下線で示した施設に関しては次ページ以降に施設概要の説明をつけています

県内の森林とのふれあい施設

施設名	所在地	面積(ha)	主な施設
表丹沢民の森	秦野市三廻部	84.6	林内散策路、芝生の広場、あずまや
東丹沢民の森	清川村宮ヶ瀬	1,828.1	林内散策路、宿泊施設、あずまや
高麗山民の森	大磯町高麗山	28.6	林内散策路
西丹沢民の森	山北町玄倉	162.4	林内散策路、24時間貸切展示林
江の島麓野々自然の森	藤沢市江の島	1.2	林内散策路、広場、あずまや
県立21世紀の森	南足柄市内山	107.3	森林館、木工実習センター、広場等
やどりき水源林	松田町寄	528.8	林間歩道、集会所、広場、見本林
三井水源林	相模原市緑区三井	21.9	林間歩道、見本林
飯山白山森林公園	厚木市飯山	33.3	林内散策路、芝生の広場
散在ガ池森林公園	鎌倉市今泉台	12.9	自然遊歩道、池、森林解説板等
箱根の森	箱根町元箱根	20.5	林内散策路、あずまや、広場
いこいの森	小田原市久野	27.0	林間歩道、広場、キャンプ施設
丸太の森	南足柄市町	24.0	林間歩道、広場、キャンプ施設、駐車場
ふれあいの森	伊勢原市日向	27.3	林間歩道、広場、駐車場
森と水の公園	南足柄市三竹	1.3	水中観察槽、散策路、あずまや、池等
湯河原梅林	湯河原町吉浜	7.5	林間歩道、池、休憩施設、お弁当等
松茸山自然の森公園	相模原市緑区鳥屋	128.0	林間歩道、多目的広場、あずまや

(出典) 統計資料集「神奈川の森林と林業」p69

本事業地は秦野SA(仮称)スマートICから車で10分程度とアクセス性が良く、また新東名高速道路を挟んだ北側には表丹沢野外活動センターをはじめとした様々な既存施設があります。本事業地における誘客施設等との相互利用や、観光産業への影響による経済効果も見込まれます。

また、表丹沢のふもとの里山の森林は古くから農業や薪・炭づくりなど生活の中で利用され、周辺集落とともに里地里山の景観を形成してきました。市民による里山ボランティア活動も幅広く行われています。

近隣の関係施設（１）

表丹沢野外活動センター

場所	神奈川県秦野市菩提246番地の5
設置の根拠・目的	青少年が、丹沢の自然を大切にし、自然や人との触れ合いを通して自立と連帯の心を育てることを目的とするとともに、「ふるさと秦野」と時代に継承するために、市民等が里地里山保全活動を行う拠点として設置
主な事業	① 青少年・学校・部活動等の野外活動、体験学習の宿泊場所等の提供 ② 人のふれあいや環境教育、里地里山保全団体等の活動拠点としての宿泊場所等の提供 ③ 環境教育や体験活動の場としての自主事業の実施
施設の内容（定員）	展示室5室・研修室9室（140）、活動室、調理室、シャワー室、小浴室、風呂棟、いろいろ棟、その他（キャンプ場等）
運営形態	指定管理（MGMグループ（代表：諸戸コーポレーション株式会社））

【管理運営費等】

	利用者数 (人)	管理運営費 (万円)	一人当たり 管理運営費 (円/人・日)	一人当たり 一般財源負担額 (円/人・日)
H19	20,294	3,371	1,661	1,532
H21	28,779	3,746	1,302	1,103
H23	22,918	4,890	2,134	1,708
H25	23,870	4,077	1,708	1,497
H27	21,280	5,286	2,484	2,254
H29	18,465	8,206	4,444	4,163
R01	11,266	5,400	4,794	4,311
R03	4,419	5,312	12,021	11,489

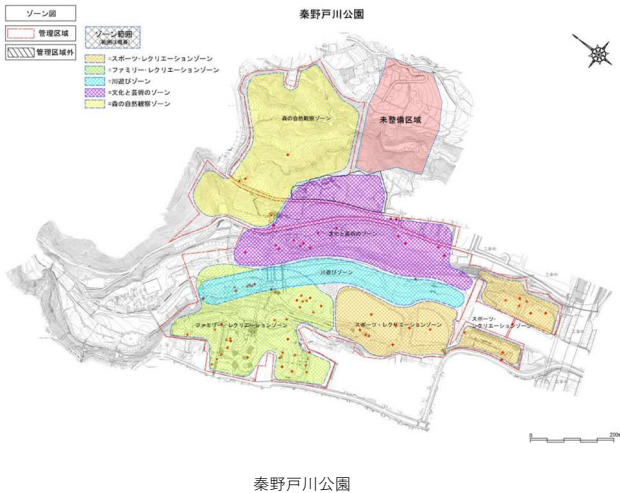
※ 平成23年度(2011年度)は空調整備工事及び給水管敷設実施設計の影響で管理運営費が増加しています。これらを除いた場合、管理運営費は約4,135万円となります。
※ 平成29年度(2017年度)は外壁塗装工事の影響で管理運営費が増加しています。これらを除いた場合、管理運営費は約6,309万円となります。

秦野戸川公園

場所	秦野市堀山下・戸川・横野
種別	広域公園
主な施設	パークセンター、風の吊り橋、多目的広場、少年野球場、バーベキュー場、駐車場、庭園（茶室含む）、山岳スポーツセンター、秦野ビジターセンター、はだの丹沢クライミングパーク等
運営形態	指定管理（神奈川県公園協会）

【年間利用者数】

	H30	R1	R2	R3	R4
利用者数 (人)	569,710	602,890	447,760	416,340	565,240



はだの丹沢クライミングパーク

場所	
設置の根拠・目的	市民の健康の保持増進及び表丹沢の魅力向上並びにクライミングの普及振興を図ることを目的として設置しています。 根拠法令等：はだの丹沢クライミングパーク条例
主な事業	市民の健康増進及びクライミングの普及振興
施設の内容	ボルダリングウォール2面、事務室、更衣室
運営形態	市直営

【管理運営費等】

	利用者数 (人)	管理運営費 (万円)	一人当たり 管理運営費 (円/人・日)	一人当たり 一般財源負担額 (円/人・日)
R03	13,158	2,996	2,277	1,683

※令和3年度の使用料収入は約573万円。



表丹沢野外活動センター



はだの丹沢クライミングパーク

（ご参考）秦野丹沢サービスエリア

新東名高速道路秦野丹沢サービスエリアは、新東名高速道路の起点となる海老名南JCTから下り線の最初、上り線の最後のサービスエリアとなります。上下線（横野・戸川地区）とも約6.6ヘクタール規模のサービスエリア（駐車場、トイレ、休憩スペース、商業施設、給油所等）が計画されています。
既に供用された新東名高速道路のサービスエリアやパーキングエリアには、一般道から利用できる駐車施設「ぶらっとパーク」が併設されており、秦野丹沢サービスエリアへも計画されています。

秦野丹沢スマートインターチェンジ 秦野市役所 (city.hadano.kanagawa.jp)

近隣の関係施設（2）

里山ふれあいセンター

場所	神奈川県秦野市羽根988
設置の根拠・目的	地域林業者の活動を促進し、並びに森林及び林業に対する市民の理解を深めるため設置しています。 根拠法令等：秦野市里山ふれあいセンター条例
主な事業	① 木工実習室等及び木工器具の貸出し ② 木工教室棟の開催 ③ 森林ボランティアの活動拠点としての使用 ④ 森林組合事務所としての使用
施設の内容（定員）	木工実習室（16）、研修室（約60）、森林組合事務所、図書室
運営形態	指定管理（秦野市森林組合）

【管理運営費等】

	利用者数 (人)	管理運営費 (万円)	一人当たり 管理運営費 (円/人・日)	一人当たり 一般財源負担額 (円/人・日)
H19	4,425	685	1,548	1,401
H21	5,621	645	1,147	1,147
H23	3,294	661	2,006	1,942
H25	3,467	673	1,938	1,938
H27	4,632	761	1,643	1,643
H29	3,911	720	1,842	1,842
R01	3,541	741	2,093	2,093
R03	3,134	748	2,387	2,387

※ 平成23年度(2011年度)は空調整備工事及び給水管敷設実施設計の影響で管理運営費が増加しています。これらを除いた場合、管理運営費は約4,135万円となります。

※ 平成29年度(2017年度)は外壁塗装工事の影響で管理運営費が増加しています。これらを除いた場合、管理運営費は約6,309万円となります。

ヤビツ峠レストハウス

場所	神奈川県秦野市羽根988
設置の根拠・目的	森林・里地里山・観光の連携事業を展開するための拠点施設として、交流人口の増加と市内消費を生み出し、地域イメージの確立を図ることを目的として設置
主な事業	① 軽食等の提供 ② 物品の販売及びレンタル ③ 棟施設を拠点とした体験プログラムの実施 ④ 表丹沢を含む秦野市及び近隣市町村の観光PR ⑤ 登山者等の避難場所としての機能
運営形態	運営委託（個人）

【管理運営費等】

	利用者数 (人)	管理運営費 (万円)	一人当たり 管理運営費 (円/人・日)	一人当たり 一般財源負担額 (円/人・日)
R03	11,959	236	197	85

※令和3年度は年間で54万円の賃借料を市に支払っている。



里山ふれあいセンター



ヤビツ峠レストハウス



田原ふるさと公園



直売所



そば打ち体験

田原ふるさと公園

場所	神奈川県秦野市東田原999
設置の根拠・目的	都市住民と農村との交流を促進し、地域農業の活性化を図るとともに、市民に憩いの場を提供するため設置しています。 根拠法令等：秦野市田原ふるさと公園条例
主な事業	① 地場産農産物の販売及び飲食の提供 ② 農業振興を図るための事業の開催 ③ 地域活動等への会議室や広場の貸出し
施設の内容	農産物直売所、そば処、漬物加工施設、そば道場、そば製粉施設、中丸広場、浸水施設
運営形態	運営委託（個人）

【管理運営費等】

	利用者数 (人)	管理運営費 (万円)	一人当たり 管理運営費 (円/人・日)	一人当たり 一般財源負担額 (円/人・日)
H19	92,740	1,159	125	110
H21	83,000	1,120	135	117
H23	80,000	1,186	148	127
H25	82,694	1,074	130	108
H27	87,072	1,472	169	146
H29	79,616	1,071	134	108
R01	66,466	1,093	164	137
R03	67,917	1,321	194	159

※ 利用者数の内訳は約7割が直売所の利用者であり、飲食施設の利用者は約3割で、そば打ち体験の利用者は年々減少している。

林業関連の誘客施設事例

ミマキウッドラボ

- 長野県東御市
- 木育をテーマとした「木の体験複合施設」
- 田中製材工業が運営
- さまざまな木工体験ができるものづくり工房やコワーキングスペース、イベントホールなどを備える



[ミマキウッドラボ | 長野県東御市 大人も子供も楽しめる木の複合体験施設 \(mimaki-wood-lab.com\)](http://mimaki-wood-lab.com)

ブナコ西目屋工場

- 青森県中津軽郡西目屋村
- ブナコ株式会社が運営
- BUNACOは、日本一の蓄積量を誇る青森県のブナの木を有効利用するために開発された製法で、ひとつひとつ手作りされている木工品
- ブナコ西目屋工場では、工場見学や木工体験が可能で、地元産食材を使用したカフェを併設している



[About | BUNACO 西目屋工場 \(jugem.jp\)](http://jugem.jp)

かぶとの森テラス

- 三重県亀山市
- 三栄林産株式会社が運営
- キャンプサイトやコテージなどを備えたアウトドア施設
- フィットネスアクティビティの起点ともなり、サイクリングやトレッキングなどを楽しめるほか、森林ヨガの体験などでもできる
- 健康経営に取り組む企業向けのイベントも提供している



[かぶとの森テラス | 三重県亀山市加太のキャンプ場&フィットネス・アウトドアホテル \(kabutonomori.com\)](http://kabutonomori.com)

リンク集

1. 事業概要

- 土地利用構想：[羽根森林資源活用拠点（仮称）における土地利用構想 | 秦野市役所 \(city.hadano.kanagawa.jp\)](http://city.hadano.kanagawa.jp)
 - 本年2月に実施したサウンディング型調査の概要：
[秦野市羽根地内「羽根森林資源活用拠点（仮称）」整備に関わる民間活力の導入に向けたサウンディング型市場調査 | 秦野市役所 \(city.hadano.kanagawa.jp\)](http://city.hadano.kanagawa.jp)
 - 土地利用計画：[羽根森林資源活用拠点（仮称）における土地利用計画 | 秦野市役所 \(city.hadano.kanagawa.jp\)](http://city.hadano.kanagawa.jp)
- （ご参考）
- 秦野市の概要：[秦野市の紹介 - 秦野市役所 \(city.hadano.kanagawa.jp\)](http://city.hadano.kanagawa.jp)
 - 表丹沢魅力づくり構想：[表丹沢魅力づくり構想 | 秦野市役所 \(city.hadano.kanagawa.jp\)](http://city.hadano.kanagawa.jp)

2. 林業の概況

- 日本の林業
[分野別情報：林野庁 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)
[森林・林業・木材産業の現状と課題：林野庁 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)
[林野庁における花粉発生源対策：林野庁 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)
[スギ花粉発生源対策推進方針【平成13年6月19日策定 令和6年4月3日改正】：林野庁 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp)
- 神奈川県の林業
[かながわの森林・林業（森林再生課提供の総合案内ページ） - 神奈川県ホームページ \(pref.kanagawa.jp\)](http://pref.kanagawa.jp)
[kanagawa_shinrinkeikaku202403.pdf \(pref.kanagawa.jp\)](http://pref.kanagawa.jp) （神奈川地域森林計画書）
- 秦野市の林業／バイオマス産業都市構想
[里山林・森林セラピー - 秦野市役所 \(city.hadano.kanagawa.jp\)](http://city.hadano.kanagawa.jp)
[秦野市バイオマス産業都市構想の策定に向けて | 秦野市役所 \(city.hadano.kanagawa.jp\)](http://city.hadano.kanagawa.jp) （秦野市バイオマス産業都市構想）
- 秦野市の林業関係者の概要（森林組合・県森連）
[神奈川県森林組合連合会 | アクセス お問合せ \(kenmoriren.jp\)](http://kenmoriren.jp)
[秦野市森林組合（公式ホームページ） \(hadano-shinrin.jp\)](http://hadano-shinrin.jp)